

「次は全国制覇を」

球場の応援 最高潮



光星ラインに声援を送る保護者＝23日、弘前市はるか夢球場

2年連続10度目、令和初の夏の甲子園出場を目指す光星を応援しようと、一塁側スタンドにはチームメイト、在校生や保護者ら大勢が集結。いきなり2本塁打を含めて大量8点を挙げた初回からボルテージは最高潮に達した。その後も試合終了の瞬間まで熱い声援を送り続けた。

保護者席では、甲子園出場を目指す息子を後押ししようと各地から家族ら約30人が詰め掛け、時には祈るような面持ちで試合の行方を見届けた。

六回から登板した長野県出身の横山海夏^{（44）}、甲子園出場経験豊富な和田市出身の伊藤大^{（16）}も、兄の勇姿をためしに左腕を振る息子の

点を奪った初回の二塁打や、八回にダメ押しの一塁打で12点目を挙げるなど活躍。巧将さんは「甲子園でも、チームに貢献できるように頑張りたい」と応援していた。（金濱千優希）

記憶に残る夏に

小林真八戸市長 市制施行90周年の節目の年、甲子園では持てる力を十二分に発揮し、強打で勝利を重ね、令和で最初の大優勝旗を八戸に持ち帰ってきてもらえるよう市民と共に応援している。夢の舞台上で躍動し、記憶に残る素晴らしい夏になることを祈っている。